

報告

地域医療に関わる地域別意見交換会 北見医師会・留萌医師会

常任理事・地域医療部長 伊藤 利道

本意見交換会は、当会から長瀬会長ほか役員が地域に出向き、地元医師会役員・会員から地域医療の現状を直接伺うため、平成20年度から開催している。今年度は通算23回目を北見市で、24回目を留萌市で開催した。

【北見医師会】

平成29年8月4日（金）18時30分より北見プラザホテルで開催した。出席者は北見医師会より古屋会長ほか10名、北海道保健福祉部より辻副知事ほか3名、北見地域保健室より斉藤所長ほか1名、北見市より2名、北海道医師会より長瀬会長ほか5名であった。

当会から地域医療にかかわる諸問題として、藤原副会長より「地域包括ケアシステム」「緊急臨時的医師派遣事業」について、小熊副会長より「第7次北海道医療計画」について、目黒常任理事より「メディカルジェット」についてそれぞれ説明を行った。

続いて地域医療の現状と課題について、北見医師会の3名の役員より、当該地域の医療の現状について説明があり、意見交換を行った。

①三宅理事（北見医）より「北見市における在宅当番医制（特に外科系）について」と題して次のとおり説明があった。「従来、北見医師会では、委託事業という形で在宅当番を実施し、市内の二次救急医療機関で患者受入を行っていたが、種々の問題点があり、平成29年4月から北見市が主体となって、夜間急病センター施設を活用し、日曜祝日当番を行うこととなった。また、北見市では外科系の外来患者数が少なく、赤字の状態である。内科系は1日約40人であるが、外科系は10人以下である」。これに対し、当会役員から急病センターを利用する近隣自治体の応分負担についての質問があった。

②荒川副会長（北見医）より「北見医師会看護専門学校現状と課題」と題して次のとおり説明があった。「入学者が減少し、定員割れを起こしている。オホーツク圏域外の看護師養成校に進学した者が圏域内へ戻って就職する率は低く、圏域内の看護需要

が充足されていない。学生確保のほか、実習施設のさらなる充実など多くの課題がある」。これに対し当会役員から「稚内では看護師の奨学金を高額にすることにより地元への定着率がかなり上がった」との意見があった。

③本間理事（北見医）より「北見市における在宅医療の現状と課題」と題して次のとおり説明があった。「訪問診療希望の患者が増加しつつある。訪問診療医、訪問看護師のなり手がいない。安定した在宅医療供給のため、診療報酬での手当や補助金等の充実により、医療機関および医師数等を増やす必要がある」。また、ご自身の昼夜を分かたない献身的な活動状況の報告もあった。これに対し、当会役員から「医師・看護師不足地域での在宅医療の確保は大変困難である。地域の医師確保として今望みがあるのは、総合診療専門医を目指す医師が増えてきていることである。こういった医師は地域での貢献に対する強い思いを持っている。あと数年後にはこのような医師が育ち、地域にも医師が充足することになるのではないか」との意見があった。

総括として、北海道・辻副知事より「今日お聞かせいただいた意見をもとに、良い仕組み作りを検討していきたい」との発言があった。



【北見医師会・会場風景】



【留萌医師会】

平成29年8月25日（金）18時より、留萌市光風館で開催した。出席者は留萌医師会より川上会長ほか9名、北海道立羽幌病院の佐々尾副院長、北海道保健福祉部より栗井地域医療推進局長ほか1名、留萌保健所より古畑所長ほか1名、留萌市より2名、増毛町より1名、北海道医師会から長瀬会長ほか6名であった。

初めに地域医療にかかわる諸問題として北見開催と同様の4項目について、当会より説明を行った。

続いて地域医療の現状と課題について、村松副会長（留萌医）より、「留萌医療圏における地域医療の現状」と題して、「留萌市および留萌医療圏の今後の医療介護需要予測について、留萌医療圏の2025年必要病床数等について、留萌市立病院の役割、病棟再編、医師の安定確保、その他課題について」など詳しい説明が行われ、意見交換を行った。当会役

員から「道立羽幌病院と留萌市立病院の棲み分けについて、地域医療構想の中で競合することはないのか」との質問があり、角副会長（留萌医）から「留萌市と羽幌町は距離がかなり離れているということもあり、羽幌町の患者は道立羽幌病院を受診している。道立羽幌病院で対応できない患者については留萌市立病院を紹介することとしているため、競合することはない」、村松副会長（留萌医）も「道立羽幌病院も地域センターとしてなくてはならない存在だ。ただし、人口が少ないため、医療ニーズが少なく、経営面など辛いところがあるのも現状だ」と答えられた。

総括として、粟井地域医療推進局長（北海道保健福祉部）から、「医師確保については、地域枠制度、地域医療支援センターからの医師派遣や、入学定員のあり方等、かなり精力的に取り組んでいる。地域医療構想の推進について、急性期医療の終わった後の受け皿については、地域ごとに実情が違うので、

地域の中で粘り強く役割および機能分担を進めていってもらいたい」との発言があった。



【留萌医師会・会場風景】



両会ともお忙しい中、出席いただいた地元医師会役員・会員・道庁・各市・振興局の方々に感謝申し上げます。

お知らせ 研修会等への託児サービス併設費用の助成について

当会では、子育て中の医師などに対し、学習する機会を確保することにより、勤務継続や復職の支援を行うことを目的に、下記基準を満たす研修会などにおいて託児サービスを併設した場合の費用として2万円を上限に助成することといたしております。

つきましては、該当の会議、研修会等がございましたら、当会事業第三課までご連絡くださいますようお願いいたします。

助成基準

1. 対象
(1) 当会会員が会長となって北海道内で開催する全国規模の医学会など
(2) 当会会員が会長となって開催する、医師を対象とした学術講演会など
(3) その他、当会が認めたもの

【助成内容】託児室利用料、保育料、交通費

(遊具・おやつ・おむつ等購入代は対象外)

2. 期間 平成29年4月～平成30年3月実施分
3. 助成額 2万円を限度として実費を助成いたします。
※ただし、営利団体等の負担金がある場合は対象外とします。
4. 申請方法 領収書の写し等を添付の上、所定の用紙※によりご申請ください。
※下記連絡先までご請求願います。

《連絡先》 北海道医師会事業第三課
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL 011-231-1726 (直通) FAX 011-231-7272 E-mail: jousei-dr-shien@m.douji.jp